

動物達が開く心の扉～CAPP活動15,000回を迎えて

Animals Unlock People's Hearts～CAPP Activities Exceed 15,000 Sessions



公益社団法人日本動物病院協会（JAHA）CAPP委員長・戸塚 裕久

Hirohisa TOTSUKA,

Chairperson, CAPP Committee, Japan Animal Hospital Association (JAHA)

○司会 それでは定刻になりましたので、シンポジウムⅡ「動物達が開く心の扉～CAPP活動15,000回を迎えて」を開催いたします。

座長は、公益社団法人日本動物病院協会CAPP委員長、戸塚裕久先生をお願いいたします。

それでは、よろしくをお願いいたします。



○戸塚裕久 皆さん、こんにちは。

シンポジウムⅡにおきましては、公益社団法人日本動物病院協会が主催をしまして、ロイヤルカナンジャパンの協力をいただき、開催することができました。

先ほど司会の方が間違えましたように、日本動物病院福祉協会というのが以前のお名前でしたけれども、この4月より公益社団法人日本動物病院協会となりましたので、皆さん、どうぞ御記憶ください。

もともとは日本動物病院協会という名前でやってたんですけれども、社団法人になりましたときに福祉がつきまして、そのまま公益社団法人になりました、日本動物病院福祉協会という名前でやってたんですけれども、やはりもとの日本動物病院協会のほうがいいんじゃないかということで、ことしの4月から元に戻しまして、公益社団法人日本動物病院協会になりましたので、よろしくをお願いいたします。

きょうの「動物達が開く心の扉～CAPP活動15,000回を迎えて」でありますけれども、JAHAが設立されたのが1978年です。それから約8年後、1986年にJAHAでCAPP活動を開始したわけですが、そのきっかけになったのが、前の年においでになられた、そ

の当時、ハワイ大学の教授をされていたミヤハラ先生のお話を聞いて、みんなでやろうかということになったわけです。お手本としたのが、これからお話しいただくカタンザーロ先生が所属しておりましたデルタ協会、2012年からペットパートナーズ協会と名前が変わりました。

最初はデルタ協会のまねという形でしたけれども、徐々に私たちの協会としての特色を出して、それはどういう特色かということ、獣医師が中心となる活動は世界的に見ても日本だけになりますけれども、活動を広げていて1万5,000回を超えたわけです。恐らく年内には1万6,000回になるんじゃないかなと思います。

どんな会場に行ってるかといいますと、老人保健福祉施設が中心でしたけれども、徐々にAATという形で、病院ですとか、あるいはこれからお話しいただく小児病棟ですとか、そういったところにも広がっていきました。それから、学校教育の現場にも出ていまして、AAEという形で活動も広げております。そういうものを全て含めて1万5,000回を超えたわけです。

また、JAHAの活動につきましては、スライドを使いまして柴内裕子から詳しい御説明をいたしたいと思います。

それでは、まずきょうお話しいただくのは、人とペットのパートナーシップということで、トーマス・カタンザーロ先生、それからちょっと順番が入れかわりませけれども、2番目が「小児がんの病棟に犬が来る」千葉県こども病院の沖本由理先生、それから「アレルギーについて」、私たちの活動については事故ですとか、アレルギーの問題ですとか、一切ないというのが、またお話の中で出てくるかと思えます。「アレルギーについて」、山岡幸司先生、そして最後に「AAA、AAT、AAEにはどのような動物が参加しているのでしょうか」ということで、日本動物病院協会の顧問をしております柴内裕子からお話をさせていただきます。

それでは、トーマス先生、よろしく申し上げます。